

# リフレクションノートを用いることによる教員志望学生の資質向上可能性について —保健体育科教育法の模擬授業実践から—

山 崎 将 幸

東亜大学 人間科学部 スポーツ健康学科  
m.yamazaki@toua-u.ac.jp

## <要 旨>

本報告は本学の保健体育科教育法Ⅲ受講者の教員としての資質向上を目指した取り組みとして、体育実技の模擬授業の振り返りとしての省察を意味するリフレクションノートを用いることで、学生の教員としての資質に関する気づきの違いが生じるのかについて検討を行った。保健体育科教育法Ⅲ受講者において、体育実技の模擬授業を行い、ビデオカメラで撮影した全体映像と教員の目線カメラの映像を合成した映像を作成し、翌週に全員で省察会を行い、その気づきをリフレクションノートに記載させた。なお、リフレクションノートには、体育実技の模擬授業終了直後にも記載させており、その気づきの個数についての比較検討を行った。その結果、省察会時の方が教員としての資質に関する気づきを多く得ていたことが明らかになった。以上のことから、映像を省察材料として使用することの重要性や学生自身がリフレクションノートに記載することで教員への資質について気づきを与える重要性を明らかにすることができたのではないかと考えられる。今後は、現任教員の授業との比較をすることで、学生のさらなる教員としての資質向上を図ることができるのではないかと考えられる。

キーワード：形成的授業評価尺度、省察会、ビデオ映像、教師行動割合、教員資質向上

### 1. はじめに

今日では、大学の教員養成課程において行われた各教科の模擬授業に関する研究成果が多く報告されている（藤田ら，2011；松本，2015）。学生が体育授業の模擬授業を行うことの成果や効果として、1) インストラクションやマネジメントといった基礎的な教授技術を獲得できること（長谷川，2003；岡出，2006），2) 体育授業を科学的に分析することや多様な視点から体育授業を評価することの意義を学生に認識させることができる（深見，2005），3) 良い体育授業の基礎的条件である「授業の勢い」や「授業の肯定的雰囲気」についての認識を高めること（日野，2004），4) 学習者に注意を向け

た観察ができるようになること（藤田・細越，2009），5) 子供の学習を組織する教師の働きかけを具体的に捉えられるようになること（木原ほか，2009）が挙げられる。

こうした学生の教員としての資質向上には、省察（リフレクション）という方略を使用することが効果的であると報告されている（木原ほか，2007）。この研究の報告によると、模擬授業を省察することで、授業の「計画」と「実施」の2つの段階における「問題の気づき」が行われていることを明らかにしている。しかし、教師としての資質向上や省察の変容については、検討されていない。この省察を通じて教員としての資質変容を明らかにしていくことは大き

な意義があると考えられる。

そこで、本研究では、本学の保健体育科教育法Ⅲの受講生を対象として、模擬授業実践の振り返りとして省察を意味するリフレクションノートを用いることで、気づきの違いに検討することを目的とする。

## 2. 方法

### 2-1 調査対象者

調査対象者は、本学の保健体育科教育法Ⅲを受講している学生 28 名であった。

### 2-2 調査時期

調査時期は 2017 年 4 月 -7 月の前期授業期間中であった。

### 2-3 調査内容

調査内容として、学生には、模擬授業前にリフレクションノートを配布した。リフレクションノートの内容としては、高橋ら (1993) が作成した体育授業の形成的授業評価尺度、模擬授業を受けての省察 (自由記述)、模擬授業をビデオで振り返っての省察 (自由記述) であった (表 1)。

### 2-4 授業内容

授業内容については、表 2 の通りである。中学校・高等学校保健体育学習指導要領解説 (文部科学省, 2008, 2009) に記載されている体育領域の

表 1 リフレクションノートの内容内容 (体づくり運動・器械運動・陸上競技・球技・ダンス・柔道) を実施した。

### 2-5 調査手順

調査手順としては、模擬授業については、1 グループを 4 名 -5 名として、ティームティーチング (TT) の模擬授業を行わせた。模擬授業中は、前年度保健体育科教育法Ⅲ受講者によって、授業時間における教師行動の記録、相互作用行動の教師行動記録を実施した。模擬授業終了後には、生徒役の学生に体育授業の形成的授業評価尺度に記入させた。加えて、模

表 1 リフレクションノートの内容

体育模擬授業(単元名: \_\_\_\_\_)についての調査

( 年 月 日 )

中学校 年 組 ( 男 ・ 女 ) 番 名前 [ \_\_\_\_\_ ]

◎ [ 今日の体育の授業 ] について質問します。下の 1 ～ 9 について、あなたはどのくらい思いましたか。当てはまるものに○をつけてください。

1	ふかく心にのこることや、かんどうすることがありましたか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ
2	今までにできなかったこと (運動や作戦) ができるようになりましたか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ
3	「あつ、わかつた!」とか「あつ、そうか!」と言ったことがありましたか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ
4	せいっぱい、ぜんりょくをつくして運動することができましたか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ
5	楽しかったですか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ
6	自分から進んで学習することができましたか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ
7	自分のめあてにむかって学習も練習できましたか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ
8	友だちと協力して、なかよく学習できましたか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ
9	友だちとおたがいに教えたり、助けたりしましたか。	はい	・	どちらでもない	・	いいえ

◎ [ 下の質問 ] について、「はい」か「いいえ」に○をつけ、「はい」に○をつけた人は、「それはどんなことだったか」にたえてください。

10	今日の体育の授業で、先生に声をかけてもらいましたか。 ◆それはどんなことでしたか。	はい	・	いいえ	}
	☆それは役に立ちましたか。	はい	・	どちらでもない	
11	今日の体育の授業で、友だちに声をかけてもらいましたか。 ◆それはどんなことでしたか。	はい	・	いいえ	}
	☆それは役に立ちましたか。	はい	・	どちらでもない	

### 模擬授業リフレクションシート(単元名: \_\_\_\_\_)

年 月 日

実際に授業を受けてみて(して)みて) <u>よかったところ</u>
実際に授業を受けてみて(して)みて) <u>悪かったところ</u>
模擬授業ビデオを振り返って <u>よかったところ</u>
模擬授業ビデオを振り返って <u>悪かったところ</u>
何を改善すれば、授業として良くなるか?

擬授業を受けての省察を自由記述で回答させた。なお、模擬授業はビデオカメラ（全体映像：SONY社製HDR-CX480，教員目線：Contour ROAM2）を用いて撮影を行った。模擬授業で撮影した映像は、担当教員が編集し、全体映像と教員目線カメラの映像を合成した映像を作成した。模擬授業を行った翌週には、教員役・生徒役の学生全員でビデオ映像による省察会を実施し、作成したビデオ映像から気づいた省察内容を自由記述で回答させた。なお、省察会では、教員役の学生が作成した学習指導案に担当教員が修正点を記載したもの、体育授業の形成的授業評価尺度の結果をグラフで図示したもの、授業時間における教師行動の割合を図示したもの、相互作用行動記録による教師行動の割合を図示したものをフィードバックした。

## 2-6 分析内容

体育授業の形成的授業評価尺度における因子得点をそれぞれの授業内容と平均点の比較を行うこととした。また、授業時間における教師行動の割合の違いについて分析を行った。加えて、模擬授業を受けての省察、ビデオ映像から気づいた省察内容について、授業ごとに気づきの個数を集計した。

## 3. 結果

### 3-1 体育授業の形成的授業評価尺度の因子得点の比較

体づくり運動、器械体操、陸上競技、球技、ダンス、柔道のそれぞれの体育授業の形成的授業評価尺度の得点は図1-4の通りである。

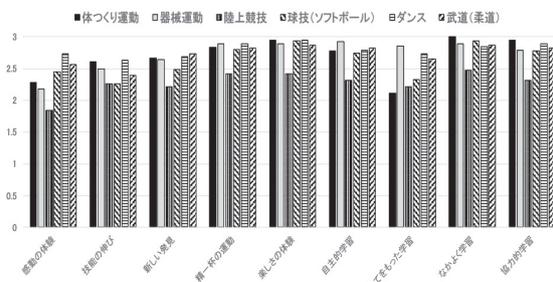


図1 各授業における形成的授業評価尺度項目得点の違い

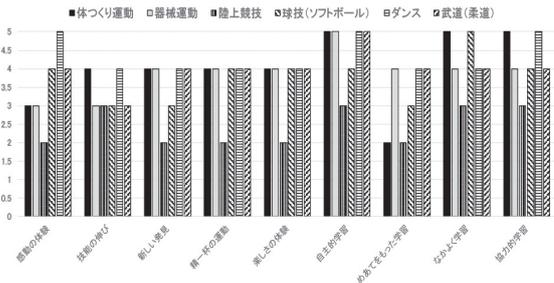


図2 各授業における形成的授業評価尺度項目評定点の違い

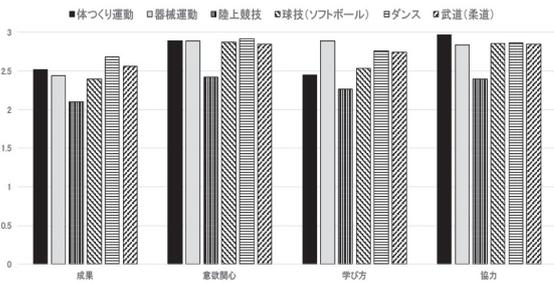


図3 各授業における形成的授業評価尺度因子得点の違い

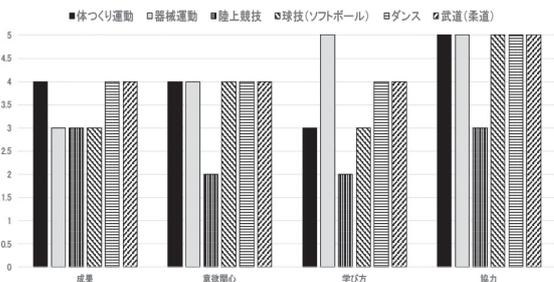


図4 各授業における形成的授業評価尺度因子評定点の違い

### 3-2 授業時間における教師行動の割合の違い

体づくり運動、器械体操、陸上競技、球技、ダンス、柔道のそれぞれの授業時間における教師行動の割合の違いは図5の通りである。

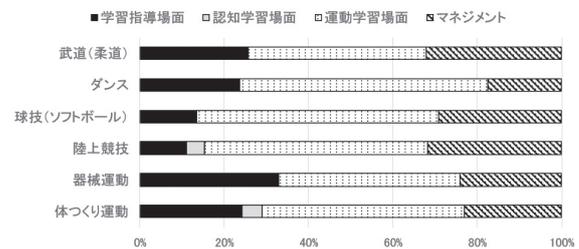


図5 各授業における教師行動時間割合の違い

### 3-3 模擬授業を受けての省察、ビデオ映像からの授業省察内容

各授業における省察内容の気づきの個数については、図6-7の通りである。

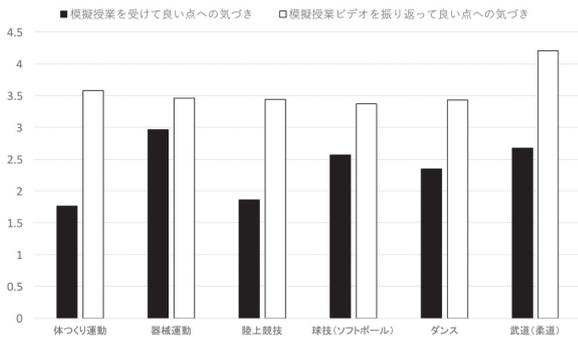


図6 各授業における良い点への気づき個数(模擬授業直後・ビデオ振り返り)の違い

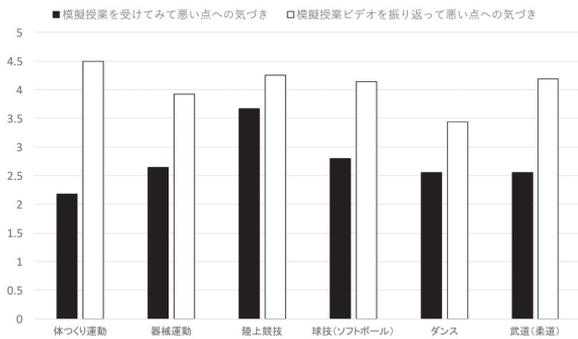


図7 各授業における悪い点への気づき個数(模擬授業直後・ビデオ振り返り)の違い

## 4. 考察

### 4-1 体育授業の形成的授業評価尺度の得点の比較に関する考察

本研究では、長谷川ら(1995)の作成した体育授業の形成的授業評価尺度を用いて、模擬授業の評価を行った。平均点を算出した結果、どの授業においても受講者は概ね満足している結果であった。これらの結果は、本学で実施している保健体育科教育法において、受講学生が体育科教育の理論的指導方法を理解してきたからだと考えられる。

しかしながら、陸上競技については、他の模擬授業に比べると、項目得点、評定点、因子得点、因子評定点のそれぞれで受講生の満足度が低かったといえる。その理由として、陸上競技は走り幅跳びの模擬授業を行っており、本学のグラウンドにある砂場が一度に試技を行える人数が2人と非常に少なく、運動する時間よりも、待っている時間の方が長かった可能性が示唆された。加えて、本授業は、生徒役の学生に対して、単に走り幅跳びの試技を繰り返し学習させることに特化した授業になっていた。そのため、生徒役の学生は授業内容に飽きが生じ、体育授業の形成的授業評価尺度全般におい

て、得点が他の模擬授業に比べて点数が低かった原因ではないかと推察される。教師がこうした学習環境の整備や学習内容の吟味に関して、万全な準備を行うことが、授業を受けるものにとって、重要な事項であることを認識する良い機会であったといえる。

一方、項目評定点を見てみると、体づくり運動の模擬授業では、「自主的学習」「なかよく学習」「協力的学習」において最高評定点を出している。器械運動では、「自主的学習」において最高評定点を出している。球技(ソフトボール)の模擬授業では、「なかよく学習」において、最高評定点を出している。ダンスの模擬授業では、「感動体験」「自主的学習」「協力的学習」の3つで最高評定点を出している。武道(柔道)では、「自主的学習」で最高評定点を出している。自主的学習において、最高評定点を出している模擬授業が多いが、受講生の自主性を尊重した授業を展開していると考えられると同時に、受講学生の参加動機に委ねた授業展開であった可能性も否定できない。また、「なかよく学習」や「協力的学習」が評価された模擬授業を行った教員役の学生は評価できる反面、授業という雰囲気を作ることができていない可能性も考えられる。また、ダンスの模擬授業では、唯一「感動体験」が最高評定点を出している。これは、これまでに体育の授業でダンスの授業を受けてきた学生が少なく、模擬授業で行うこと全てが新しいもので、感動するような体験を経験できた可能性がある。

### 4-2 授業時間における教師行動の割合の違いに関する考察

本研究では、高橋(2003)の提唱する授業場面の期間記録法を用いて、教職課程履修者の授業場面の期間記録法のトレーニングを受けた学生によって記録された。その結果、各授業において、運動学習場面については、概ね受講者が満足できる時間を確保していることが明らかになった。このことは、本学で実施している保健体育科教育法の授業で行ってきた理論的学習を理解していると考えられる。

一方で、学習指導場面やマネジメントについ

では、できる限り少なくし、その他の場面に授業時間を費やすことが理想とされているが、体づくり運動、器械運動、武道（柔道）は学習指導場面やマネジメントに費やしている時間が多いことがわかる。受講学生が理論的なことを理解している一方で、模擬授業を行うことが初めての受講学生が大多数であることから、指導案通りに授業が進まないことへの焦りや準備不足といったことが、マネジメント時間を要した理由として考えることができる。また、体育授業の学習の中で、認知学習場面（グループやペアで学習のポイントを話し合う活動を行う場面）は、これからの学習形態とされているアクティブ・ラーニングとして重要な項目であるにも関わらず、体づくり運動、陸上競技でわずかにみられる以外は活動していないことが明らかとなった。この点については、認知学習場面というものを受講学生が明確にイメージできていなかった可能性がある。つまり、体育授業の認知学習場面として、問題解決学習や体験学習、グループディスカッション、グループワークといったアクティブ・ラーニングと考えられる教授方法を授業の中に取り入れる意味や意義を受講学生に理解させることが大切な事項であると考えられる。また、本研究の結果から、体育授業の学習が受動的な学習になっていると考えられる。今後の保健体育科教育法の授業の中では、生徒役の学生にとって受動的な学習ではなく、能動的な学習となり授業展開となるように、模擬授業を行うまでに、指導案計画段階で認知学習場面の時間を組み込むことができるようにすべきである。

#### 4.3 模擬授業を受けての省察、ビデオ映像からの授業省察内容に関する考察

本研究では、模擬授業終了後と翌週のビデオ映像からの振り返り時にリフレクションノートを用いて、良い点・悪い点について自由記述から受講学生の回答を求め、その個数の違いについて検討した。その結果、どの授業でも、模擬授業終了後よりもビデオ映像からの振り返り時のほうが、良い点も悪い点も気づきの数が多いことが明らかになった。このことは、ビ

デオ映像で振り返ることで、より細部にわたって模擬授業の省察を行うことができることを意味している。多くの模擬授業では、担当教員からの振り返りを行うことになっている。しかしながら、本研究のように、模擬授業を全体映像・教員の目線カメラ映像を用いて、ワイプ合成した映像を作成して受講学生に振り返らせることにより、より多くのことに気づくことができ、その受講学生同士の気づきを担当教員がフィードバックすることで、受講学生の資質向上を促せる可能性を示唆した。これからの模擬授業では、ビデオ映像を用いて、省察を行っていくことが、学生への気づきを与え、改善点を自己点検することが可能になり、教員としての資質向上を促すことができると考えられる。

#### 5. 研究の限界・今後の展望

本研究は、授業実践の中で収集したデータを提示したものに過ぎない。今後の展望として、形成的授業評価の評価とリフレクションノートの記述内容の関連性を検討していくことができれば、受講学生の教員としての資質向上を図ることができるのではないだろうか。また、新たな試みとして使用した教員側の目線カメラでの振り返りは省察会を行う上で、教師側が授業を行ったことを振り返ることに役立つ可能性がある。今後の展望として、現職の教員の授業内容を、本研究で行った手法と同様の手法を用いて目線カメラの視野の違いやどういったところに授業中目線を向けているのかについてデータを収集し、模擬授業を行った学生との比較を行うことは、学生の教員としての資質向上に役立つ知見を得られると考えられる。

#### 引用・参考文献

- 藤田育郎・細越淳二（2009）体育科模擬授業における学習成果の検討。国土舘大学体育研究所報，27，79-86。
- 藤田育郎・岡出美則・長谷川悦示・三木ひろみ（2011）教員養成課程の体育科模擬授業における教師役経験の意義についての検討－授業の「省察」に着目して－。体育科教育学研究，27（1），19-30。

- 深見英一郎 (2005) 天理大学における教師教育プログラムの検討－体育の模擬授業実践及び授業観察の分析を通して. 天理大学学报 (体育編), 56 (3), 23-34.
- 長谷川悦示・高橋健夫・浦井孝夫・松本富子 (1995) 小学校体育授業の形成的評価票及び診断基準作成の試み. スポーツ教育学研究, 14 (2), 91-101.
- 長谷川悦示 (2003) 筑波大学の体育授業実習例. 高橋健夫編著 体育授業を観察評価する－授業改善のためのオーセンティック・アセスメント－. 明和出版, pp145-151.
- 日野克博 (2004) 愛媛大学での実践的検討. 大学・大学院における体育教師教育カリキュラム及び指導法に関する研究. 研究代表者 高橋健夫. 平成 13 年度～平成 15 年度科学研究費補助金 (基盤研究 B) 研究成果報告書, 103-111.
- 木原成一郎・村井潤・坂田行平・松田泰定 (2007) 教員養成段階の体育科目における模擬授業の意義に関する事例研究. 広島大学大学院教育学研究科紀要第一部学習開発関連領域, 56, 85-91.
- 松本奈緒 (2015) 複数回の指導経験から反省的実践力を保障する体育教師養成カリキュラムの検討－マイクロティーチングと模擬授業の実施・省察を通して－. 秋田大学教育文化学部研究紀要教育科学部門, 70, 33-43.
- 岡出美則・鬼澤陽子・須甲理生 (2006) 大学における体育教師教育プログラムの展開－模擬授業の方略と実現条件の検討－. 大学・大学院における実践的指導力形成のための体育科教員養成プログラムの開発. 研究代表者 大友智. 平成 14 年度～平成 17 年度科学研究費補助金 (基盤研究 B) 研究成果報告書, 107-121.
- 高橋健夫編著 (2003) 体育授業を観察評価する－授業改善のためのオーセンティック・アセスメント－. 明和出版, pp36-39.